

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 19 日現在

機関番号：32682

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370873

研究課題名(和文)ブルゴーニュ=ハプスブルク期南ネーデルラントにおける都市アイデンティティの形成

研究課題名(英文)Formation of Urban Identity in the Burgundian and Habsburg Southern Low Countries

研究代表者

青谷 秀紀 (Aotani, Hideki)

明治大学・文学部・准教授

研究者番号：80403210

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、中世後期、とくにブルゴーニュ家及びハプスブルク家支配下の南ネーデルラントにおける、都市アイデンティティの形成や変容に考察を加えた。対立するにせよ友好的な関係を結ぶにせよ、君主と濃密なコミュニケーションを展開した都市を取り上げ、君主と市当局がそれぞれ、政治文化の領域において、どのように都市アイデンティティのあり方に影響を及ぼし、これを共同体の支配に利用しようとしたのかを明らかにした。その際、この目論見と、ときに呼応ながら、ときにずれを生じさせながら、市民諸集団のアイデンティティがどのように変容し、再構築されたのかにも充分配慮するよう試みた。

研究成果の概要(英文)：This project investigated the formation and transformation of urban identity in the southern Low Countries during the late Middle Ages, particularly under the rule of the Burgundian and Habsburg dynasties. Focusing on the cities that had close political relations with each other, irrespective of whether they were antagonistic to or cooperated with their rulers, it clarified how the princes and urban authorities tried to influence the urban identities of these cities through politico-cultural means and utilize them to govern the urban communities. In addition, the project focused on how the identities of urban groups were transformed or reconstructed over the years, sometimes in accordance with and at other times diverging away from the aims of the princes and urban authorities.

研究分野：西洋中世史

キーワード：中世 南ネーデルラント 都市 アイデンティティ

1. 研究開始当初の背景

筆者は、本研究開始以前に、科学研究費のプロジェクトとして、中世後期フランドル都市の宗教社会史的研究を行っていた。そこでは、ヘントやブルッヘといった大都市を中心に、ブルゴーニュ公家による支配が進展するなか、宗教的領域を中心に市民のアイデンティティにどのような変容が確認されるのかが一つの課題となっていた。より具体的には、プロセッションに代表される宗教儀礼や兄弟団をはじめとする信心組織の分析から、君主の中央集権政策と都市自立主義の二つの政治的傾向の間で様々な動きを見せる君主・都市間ならびに都市内部における権力・社会関係が、宗教現象を通じて市民のアイデンティティ形成にどのような影響を及ぼしたのかを明らかにすることが目標とされていた。そうした研究課題の設定の上で一定の成果をあげることはできたものの、そこから新たに、地理的・テーマ的に対象を広げ、ブルゴーニュ公家やその後継であるハプスブルク家の支配が及んだ南ネーデルラント全体において、それらの成果と、他領域における都市アイデンティティの形成及び変容のあり方を比較的に考察する必要が生じてきた。

筆者の研究以外でも、中世後期のネーデルラント都市のアイデンティティをめぐる研究は、修辞家集団など特定の組織・団体の考察や、イタリア都市との比較を通じてなど、重要な成果が提示されつつあったものの、依然として未開拓な地域やテーマが多く残されていた。そうした点から本研究課題が構想された次第である。

2. 研究の目的

以上のような背景のもと、ブルゴーニュ公家並びにハプスブルク家統治下における南ネーデルラントの都市アイデンティティのあり方を浮き彫りにすることが本研究の目的であった。地域的な面では、それまでの研究対象であったフランドル地方にくわえ、ブラバント公領やリエージュ司教領など近隣諸邦を含む南ネーデルラント全般の都市へと考察対象を広げた。ただし、限られた研究期間でこれらの地域の都市全般を分析対象とするのは現実的ではないため、メヘレンを中心に権力関係が錯綜し複雑な政治的展開を示す境界地域の都市あるいは飛び地的な都市に強く焦点を当てることとした。また、テーマ的にも、これまでの宗教社会史的視点を引き継ぎながら、それにとどまらない都市の文化やコミュニケーションの政治社会史的側面にも視野を広げ、より包括的に都市アイデンティティの諸相を明らかにするよう心がけた。そうして、ブルゴーニュ=ハプスブルク家による広域支配の進展において、南ネーデルラントが示す独特の都市アイデンティティの形成並びに変容のあり方を解明することが本研究の中心的な課題であった。

3. 研究の方法

ヘントやメヘレンといった都市のアイデンティティと宗教現象の関係をめぐっては、P・フレデリックによる史料集成を中心に刊行史料を主として活用したが、これらには不備も多いため、随時、都市会計簿や年代記など様々な未刊行史料を現地の文書館で参照し、情報を補いつつ分析に取り組んだ。戦乱の影響で史料状況が望ましくないリエージュ司教領に関しては、P・F・X・ド・ラムやE・フェロンらが刊行した史料集が現存するかなりの部分の文書資料を収録しているため、これらを考察の中心に置いた。ただし、広く南ネーデルラント全体にも目配りし、従来、リエージュ司教領とは比較的無関係と考えられていた近隣諸邦の史料にも情報を求めることで、南ネーデルラントとその周辺に広く張り巡らされていた都市ネットワークの観点から諸現象をとらえるよう心掛けた。

4. 研究成果

先の研究を引き継ぐ形で取り組んだ都市の宗教と市民のアイデンティティの関係をめぐる考察では、一定の成果を打ち出すことができたと考えている。まず、従来の研究対象であったフランドル都市のヘントにくわえ、ブラバント公領内に飛び地的に存在するメヘレンにも注目し、都市が教皇庁やブルゴーニュ公と交渉を展開するなかで、救霊をもたらす贖宥と魂の破滅に通ずる破門や聖務停止といった宗教現象が都市アイデンティティにどのような影響を及ぼしたのかを検討した。その結果、都市が、贖宥の付与を通じて救霊のための巡礼地となり、ブルゴーニュ公国内において聖地としての機能を果たすようになったこと、これが聖なる都市としてのアイデンティティを都市にもたらすようになったこと、しかしこうした公国の聖なる中心地としての表象は、都市内の宗教的分裂や君主に対する反抗を原因とする破門・聖務停止、都市破壊の危険性と常に背中合わせのうちに機能していたことが明らかとなった。

続いて、このメヘレンと同じく、ブルゴーニュ公やリエージュ司教の強い影響下であり、複数的・重層的な都市アイデンティティの様態が存在すると予想されるリエージュ司教領の諸都市にも集中的な考察を加えることにした。とりわけ、フィリップ・ル・ボン治世末期からシャルル・ル・テメレールの治世にかけて展開されたりエージュ紛争は、都市のアイデンティティや帰属心、そしてこれらを決定する都市間のネットワークや従属関係、対立関係について知るための格好の素材であった。都市リエージュがブルゴーニュ公とその傀儡であるリエージュ司教に対立する過程では、長年にわたり、聖務停止という教会罰がドイツ都市ケルンを巻き込んでまで君主・司教領諸都市間の重要な争点と

なり、反乱鎮圧後のブルゴーニュ支配においても、都市の聖人崇敬がその内実を変容させられながら君主支配に活用され、都市アイデンティティに深刻な影響を及ぼそうとしていた。ただし、市民たちは、こうした宗教面でのコントロールを通じて君主支配を浸透させようとするブルゴーニュ公に対し、これを全面的に受け入れるわけではなく、また正面から衝突するわけでもなく、巧みに聖なるものと自らの関係に折り合いをつけながら短命に終わったシャルル・ル・テメレルの支配をやり過ごしたことも考察の過程から浮き彫りにされた。

また、以上の紛争の分析から、司教領でリエージュに与しつつ、同じようにブルゴーニュ公による破壊の憂き目にあったディナンや、司教領に属しながらも首座リエージュと対立したマーストリヒトのような司教領並びにその周辺の諸都市についてもそれらの帰属心やアイデンティティの諸相に光を当てることができたように思われる。とくに、リエージュに程近いマース河畔の都市マーストリヒトに関しては、リエージュ紛争とその後のブルゴーニュ公支配の過程で君主支配の拠点としての都市の性格が強力に打ち出されてゆく過程を、限られた史料状況の中で一定程度明らかにすることができた。マーストリヒトは、司教領に位置しながらも13世紀以来リエージュ司教とブラバント公の二重支配を受けており、飛び地的なブラバント都市としての側面を有してもいた。この都市が、1468年の都市リエージュの破壊後、ルーヴァンやナミュールとともにリエージュに代わる教会法廷の所在地として機能し、なおかつマース川流域地域の統治機関の所在地としても重要な役割を果たすようになり、地域の首座としての面貌を示すようにもなるのである。マーストリヒトのこうした君主支配の拠点としての役割は、短命に終わったブルゴーニュ公シャルル・ル・テメレルの支配とともに終焉を迎えるが、従来、あまり顧みられることのなかった同市のアイデンティティと政治の関係についてある程度の考察結果が得られたことは、本研究の収穫の一つとあってよいだろう。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 6件)

青谷秀紀「ブルゴーニュ公か、ブラバント公か 15世紀後半のリエージュ紛争と君主支配 (仮題)」, 朝治啓三編『帝国で読み解く西欧中世の権力構造(仮題)』, ミネルヴァ書房、2016年刊行予定。

青谷秀紀「15世紀後半のリエージュ紛争と北西ヨーロッパ都市」, 藤井美男編『ブルゴーニュ国家の形成と変容 権力・都市・文化』, 九州大学出版会、2016年、79-106頁。

青谷秀紀「聖なる権威の在り処をもとめて 15世紀後半のリエージュ紛争とブルゴーニュ公」, 服部良久編『コミュニケーションから読む中近世ヨーロッパ史 紛争と秩序のタペストリー』, ミネルヴァ書房、2015年、415-437頁。

青谷秀紀「中世後期ネーデルラントにおける聖地の表象と贖宥」, 『史林』98巻1号(2015年)、69-102頁。

Hideki Aotani, "The Papal Indulgence as a Medium of Communication in the Conflict between Charles the Bold and Ghent, 1467-69", in: *Political Order and Forms of Communication in Medieval and Early Modern Europe*, Y. Hattori (ed.), Viella: Roma, March 2014, pp. 191-206.

Hideki Aotani, "Mechelen's Jubilee Indulgence and 'Pardon' in Burgundian Political Culture", *Proceedings of Medieval Identities: Political, Social and Religious Aspects. The Eighth Japanese - Korean Symposium on Medieval History of Europe, August 21, 2013 - August 22, 2013, Tokyo, Japan*, pp. 28-37.

[学会発表](計 4件)

青谷秀紀「中世後期ネーデルラントにおける聖地の表象と贖宥」, 2014年度史学研究会例会共通論題報告「祈り」, 2014年4月19日、京都大学(京都府京都市)。

青谷秀紀「中世後期ネーデルラントの出自神話とアイデンティティ 君主・領邦・都市」, 歴史学研究会ヨーロッパ中近世史合同部会・早稲田大学イスラーム地域研究機構第1回合同シンポジウム「歴史叙述とアイデンティティ ヨーロッパ史研究とイスラーム史研究の対話」, 2014年2月1日、早稲田大学(東京都新宿区)。

青谷秀紀「伯権力衰退期のフランドルと英仏王権」, 西洋史研究会大会シンポジウム「西欧カトリック世界の帝國的構造」, 2013年11月10日、立教大学(東京都豊島区)。

Hideki Aotani, "Mechelen's Jubilee Indulgence and 'Pardon' in Burgundian Political Culture", *Medieval Identities: Political, Social and Religious Aspects. The Eighth Japanese - Korean Symposium on Medieval History of Europe, August 21, 2013, Keio University (Tokyo), Japan.*

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕
出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

青谷秀紀 (AOTANI HIDEKI)
明治大学・文学部・准教授
研究者番号：80403210

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：